

本日の登壇者は2人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 皆様、おはようございます。会派、対政会、16番の大浦でございます。

本日は、特に対馬の観光でありました韓国からの韓国人観光客の約3年前にコロナにより、船は入港できない状態になりました。このダメージはかなりの大きさを持っております。最大、その当時41万人の入国の実績。そして、観光消費額2万数千円の中で約91億の対馬島に落とすであろうという1人当たりの経済的な効果、これがゼロになったわけです。しかし、これを何とか取り戻さないかん。その起爆を仕掛けないかんということで、いろいろ国の施策、特に、しま旅の導入実施、ここらに対策を置かれて3年経過いたします。

私が感じる場所は、このことの結果がどうであったろうかと、やや力がいま一步ではなかったかなという思いをしております。ともあれ、担当部署において、この実績について中身を聞きたいと、どれだけの効果があったんだということでございます。

令和3年から以降3か年の実績、経済効果、そこらについてお尋ねをしたいと存じております。それが1点なんです、私、9月9日、この日がちょうど原稿の締切日でありました。それで、今、申し上げたことばかりを頭に置いて、このことを考えておったわけですが、ちょっとこの場で申し上げていいかどうか分かりませんが、ちょっと耳を傾けてほしいと思います。

これは、9月9日以降の新しい情報であります。9月12日の政府の関係のメッセージがメディアに伝えられております。その一部を読みますと、「政府は9月12日、コロナの感染者数が減少傾向となっている中で、新型コロナの水際対策も緩和し、1日当たり5万人の入国者数上限を10月にも撤廃する方針で調整。訪日客に義務づけている短期ビザの取得免除や個人旅行の受入れ解禁も検討する」と複数の政府関係者が12日、明らかにした。

このことを私は、いつ、その状態になるんだろうかというふうな思いがあったわけですが、政府自らそういうふうな判断をして、10月にはこの調整を進めるんだと、このようなことが情報として発しております。そうなれば、今日の考えておった対馬の観光振興の将来についてと題して、この3年間の実績を強く問う気があったんですが、ちょっと方向が変わってきたなという中で、質問の内容もいろいろ、市長との話の中で問うていきたいことも通告外にあるかもしれませんが、それは話ができる範囲のことといたします。

それでは通告に従い、ただいまの内容について、市長のほうから、令和元年度から3年度のしま旅を含む、この実績と経済効果がどのようになっておるか、どう考えるか、ここらについてお尋ねをしたいと存じます。

それと、私、前回、上対馬町の茂木浜の海岸にアオウミガメが産卵しておったけども、これが

海岸、災害等の保全により護岸、階段工が設置された中で、これができなくなったというふうな話を聞く中で、いろいろ調査した結果もここで話をいたしました。その後のことにつきまして一部報告をしたいと、かように思っております。そういうふうなことでございますが、市長のほう、よろしく願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。

大浦議員の質問にお答えいたします。

令和元年7月の日本による輸出規制の強化など、国際情勢の変化から全国的に韓国人観光客が減少し、特に対馬では深刻な影響を受けてきたところでございます。また、この状況に加え、コロナの影響により、令和2年2月以降、韓国人観光客はほぼ皆無であります。

このような状況下におきまして、国内観光客への誘客に向け、令和元年度には市独自で、1泊以上宿泊される方に対し、対馬観光クーポン券の販売を行うとともに、特定有人国境離島地域社会維持推進交付金を活用した、県と県下離島の市・町が連携し、通常の旅行代金から島民並みの運賃に値下げされた旅行商品を旅行者が販売する、しま旅滞在促進事業を行いました。また、対馬においては日韓関係の悪化により、韓国人観光客激減対策として、行っ得！つしま宿泊割引キャンペーンを行ってまいりました。

令和2年度は、しま旅滞在促進事業に行っ得！つしまクーポン券との交付と、県主体による長崎県民を対象にした「ふるさと再発見の旅」、全国を対象にした「ながさき癒やしの旅」、さらに、「ふるさとで“心呼吸”の旅」キャンペーンにより、対馬の宿泊実績は2万2,778人泊になっております。

令和3年度は、しま旅滞在促進事業に行っ得！つしまクーポン券の交付、ふるさとで“心呼吸”の旅キャンペーンにより、対馬においては2万7,797人泊の実績となっております。

令和4年度につきましては、令和3年度同様、しま旅滞在促進事業及びふるさとで“心呼吸”の旅キャンペーンによりまして、国内客の誘客を展開しているところでございます。

経済効果につきましては、客観的な数値ではございますけれども、1人1泊当たりの消費額2万6,000円から、令和2年度の実績2万2,778人泊分で約5億9,400万円。令和3年度では、2万7,797人泊分で、約7億2,200万円の効果をもたらしております。

なお、しま旅滞在促進事業分では、令和2年度、県全体の事業費4億6,263万6,000円のうち、市負担分が3,471万円、対馬における実績が1万8,961人泊分で、その経済効果は4億9,200万円となります。

また、令和3年度では県全体の事業費3億2,204万9,000円のうち、市負担分が2,829万2,000円。対馬における実績が4,457人泊で、その経済効果は約1億

1,500万円になります。この効果額は、あくまでも客観的な数値であります。

泊数については、新型コロナウイルス感染拡大により、しま旅商品の販売の停止が相次ぎ、特に令和3年度においては、その影響により泊数が伸びていない状況でございます。

対馬への誘客を行う上で、本土からの交通費などがネックになっていることから、しま旅滞在促進事業の旅行商品で、そのハードルを下げることができ、さらに体験も行えることから、効果的な事業と考えております。

今後も、しま旅滞在促進事業など、特定有人国境離島地域社会維持推進交付金を活用した誘客の促進を継続し、また、県とも連携しながら、国内客の誘客促進を図ってまいります。

市では、観光振興推進計画にありますように、モノの消費から歴史・文化・環境などを生かしたコトの消費へと観光資源を磨き上げ、多くの方々から対馬を選んでいただけるように取り組んでまいります。

次に、水際対策の緩和についてでございますけれども、新型コロナウイルスの水際対策の緩和については、9月7日から1日当たりの入国者数の上限を現行の2万人から5万人に引き上げられ、添乗員を伴わないツアー客の入国も可能となったほか、入国・帰国者全員に義務づけられておりました出国前72時間以内の陰性証明書の提示が不要となっております。

しかしながら、今、議員もおっしゃられたように、私のほうも今朝のニュースで聞きまして、慌てて新聞をコピーさせてもらったんですけども、これがまず5万人の入国者数の上限が、10月中にも撤廃する方向で調整がされていると、そしてまた、訪日客に義務づけられている短期滞在ビザの取得免除や個人旅行の受入れ解禁も検討するというような記事が出ております。そういう中で、今後は緩和が進んでいくものというふうに考えております。

本市の国際航路の再開については、このような状況もありまして、運航を検討されている航路事業者もあると伺っておりますので、今後も情報を把握しながら、その対策に取り組んでまいります。

その一端として、8月30日、31日の2日間にわたり、厳原会場、上対馬会場において、対馬おもてなし協議会によりますインバウンド回復に向け、対馬釜山事務所副所長による韓国人観光客の動向や船会社代理店による国際航路の就航見通しなどについて、市内観光業者に対し、現在の情勢についての情報提供を行っているところでございます。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 私は、しま旅関係を中心とした数字の把握をさせていただいた中で、その他、複合的に各省庁といたしますか、助成措置があった中で、総合的に市長の答弁があった中で、私も金額が膨らんだ状態でありますから、経済効果が、私が聞いたことよりも大きいな

ということを改めて感じております。その経済効果、観光消費額の算定なのですが、私が聞いた県の情報の数字では、しま旅を基本とした場合に1人当たりの金額が、令和元年で2万5,910円、これを算定しておりました、県のほうは。それと、令和2年度、2万6,086円、これは関東とか関西から出た場合の所得層の差が対馬にどれだけの金を落としたかというふうな経済額のおそらく算出だろうから、聞いたこの範囲しか事がないんですが、先ほど市長の答弁の中で、この単価にほぼ同じぐらいであったというふうに理解しておるんですが、それはよろしいですかね。

それと最後に、令和3年のしま旅はコロナの影響が強くて、来島する、こちらに来られる範囲の抑えをしたから、しま旅においては僅か5,000人の数字しか上げておりません。これの経済効果は算出しておらないと、現在、検討中であると、ただし2万5,000円の数字ぐらいは見込んでいざらうと、このようなことなんですが、その辺のことが私の知つとる限りの話なんですけども。

当初、1年目のことをちょっと担当部長も含めて話を聞いてほしいんですが、この観光のシステムは、長崎県観光連盟が事の事業主体を行うと、そして、これを国内旅行者と業務提携の上、対馬への旅行商品の企画を行い、しま旅滞在の促進を図るというふうなことで要約すればなるかと思えます。

その中で、ここから先が問題なんですが、対馬の宿泊業、飲食関係、このことの連携は対馬にある大きなホテルが、この旅行会社と提携をする。そして、その旅のルートをどこに、食事の場所、あるいは交通関係、ここらをそれなりに地元の大きなホテルが考えているんでしょうが、当初。

この辺に、地域の皆様はほとんどそのことについて学習されておらなかったみたいで、後になって自分のところも来てほしいというふうな意見がかなり、私、聞いた覚えがあるんですが、その辺のことについて、当初の立ち上げはうまくいかんやっような気がするんですが、その辺を市長でもいいんですが、部長でもいいんですが、実態に沿うた話をしてください。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） お答えいたします。

今おっしゃいましたように、しま旅滞在事業につきまして、特に議員のほうおっしゃっております。

この事業は、平成29年度から始まったというふうに聞いておまして、そのたびに県の観光連盟が主になって、そして、地元の観光物産協会、観光商工課と連携してやっておるんですけども、その都度いろいろな周知方法で地元の対馬内の宿泊業者、飲食店等には周知をして、こういった事業がありますのでということでやってきておるといふふうに聞いております。

また、具体的なお話をさせていただきますと、昨年も宿泊業者向けのセミナーということで、

このおもてなし事業というのを市でも県と一緒にやっていますが、その中の事業なんですけれども、県の観光連盟が対馬のほうに来まして、上地区と下地区で2日間に分けて、こういったしま旅滞在事業が継続してやっていますよと、このことにぜひ旅行会社と組んで、皆様も宿泊に、お客様を泊めれるような連携を取られたらどうですかというような、そういった説明は、その都度やってきておるはずでありますし、そのつもりであります。50、60おられる宿泊業の中でも、幾つかはそういったところの情報が少なかったり、積極的になさらなかったりということもあるのかなと私のほうでは認識をしております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 観光連盟とか、あるいは旅行会社とか、地元の大きなホテル。これは受入れの連絡が、基本が取れると思うんですけども、対馬に来てからどう流していくかということ、今、部長おっしゃられましたけども、十分ではない点が私はあったような気がいたします、1年目のことなんですけどね。だから、皆さん聞いた範囲では、誰に言えばいいとか、東京の旅行会社に申し込んで、その自分の事業所の動画でも流しながら、そういう情報をやるとかいうようなことしかないわけですが、その辺が板に乗らなかったのではないかという思いがいたします。

それで、部長でも結構なんですけど、そうならば、この対馬に来た元年度でもいいんですが、2年でもいいんですが、旅行者というのは関東、関西分けて何業者ぐらい入ったんですか。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） お答えいたします。

旅行者のほうですね。これは我々としても細かい旅行者までは、数までは調べておりません。言いますと、大手の阪急交通社さんとか、いろんなおられますけれども、そういったところから個人でなさっている旅行会社もございます。そういったところが直接、宿と契約といいますか、交渉をされて、その旅行会社がつくられた旅行商品にのったお客様をその宿に連れて行くというような形で進められております。ですので、国内の旅行者というのは数多く存在をしております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） この事業費の負担分においては国が55%、残りの45%を県と市が折半すると、そうしますと数千万の金が市も予算化しておりますよね。これ、いただいた資料からそういうふうなことが載っておりますよ。

やはり、元年度に、市からいただいた資料から言えば3,000万ぐらいの、これは元年度は

そんなにあっていませんけども、2年度あたりは7,200万ともう一つ3,400万足した金をすれば1億超す金じゃないですか。

3年度については、これはあまり島外の中でも県内というふうなことで、コロナの感染拡大でブレーキかけた。これは3年度はあまり議論はならないんですが、元年度と2年度は、はっきりものを言わないかんということであるんですけども、これだけの金を突っ込む中で何社ぐらい対馬に来ておるとか、これは部長、分からんちゆうこと自体は、この場でのことならまだ問題は後で聞きゃあいいでしょ、しかし、全容を把握することは、担当部署としては、私は当然と思うんですよ。その辺はちょっと熱が入っとらんっちゃないんですか。

関東から何社入った、関西から何社入った、何人来た。このぐらいのことは1年間の実績ぐらいぼんと出らなうそですよ。これだけの金をあんた負担しながら、観光連盟が全部握っているからそれを聞いてください。こんな話はないと思いますよ。

どうですかね、私、その辺が、対馬の地元でどういうルートで客を回すかぐらいの絵を書いた中で、関係する人間にそういうチャンスがあつとるが申し込んでみんねというような、促進するようなことが対馬市の今の部署、観光物産協会、2つのポジションはその中に少しでも勧誘して、地元の流れを引き込んでやらないかんということが、熱が少し足りないんじゃないかなと思っております。僕は正直言うて、それが、今回の話の指摘やったんですよ、特に1年目。皆さんが分からんとですけん。

この話したら失礼ですけども、あのグランドホテルの社長さんが、「私このこと分かりませんでした」言いよったから、あら、そんな大手の東横INNあたりは分かっておりますでしょうけども、おかしな立ち上がりじゃなと思つたんですよ。だから、その辺を遠くでもの見たようなことではいかんわけで、ちょっとその辺の腰の入れようが、私は指摘したいと思います。もしあれば、市長でも、部長でも、どうですか。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 申し訳ございません。私の説明もちょっと足りませんでした。

せんだってから、大浦議員おっしゃってくださっていますように、確かに市費も投入してやっております。県と一緒にやっております、しま旅滞在促進事業です。

それはもうおっしゃるとおり、ある程度の旅行会社とかの動きとかというのは普段から持ち合わせるの、そのとおりにかなと思っております、今、県の観光連盟から問い合わせ、手元に入っておる資料を私もちょっと、今、持っていない状況で申し訳ございません。そういう動きをこここのところしておりますので、おっしゃるように、市の予算として事業を起こしている分については、それなりの情報は収集していこうというふうに思っております。失礼いたしました。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） この2か年の成果、3年目はこれはできませんね。私は長崎県内の旅行社だけをというふうなことの範囲は非常にうまくいかなということ、そう思いましたよ。だから、元年度と2年度における総売上を先ほど市長の答弁、私がしま旅だけを見た場合の金額とかなり差があったような気がいたします。

それで、この県全体の金額に対し、対馬市の事業内容について、金額について、そして経済効果、いわゆる観光消費額、こちらについて何点ぐらいの点数をつけるんですか。私は少しこの金額が、市長が報告した金額は結構多かったもので、それはちょっと私のほうのチェックが足りなかったかいなと思ひまして、5,900万の金を言いましたね、令和2年度の。そこらあたりを私はその数字から見よつたら、これは聞いた話では——しま旅で約2万人来ているんですよ。簡単に言えば、元年度に1万人、令和2年度に2万人、そして、令和3年は5,000人という、これはしま旅の数字なんですけど、これからの積算でいけば2年目に5億数千万という金が上がって、1年目、2億6,000万ぐらいの数字が上がる。このぐらいのことかなと思つたんですが、その複合的な事業の、足した状態で、かなりの大きな数字が2年度に上がっています。ですから、国の事業を利用しながら、これが成功したのか、そうでもなかったのか、どのぐらいの点数でいくんでしょうか。私、その辺をあまりいつとらんと思つて、最初思つたんですよ。そして、2年目は大きいすもんね、数字が。市長の回答は、あら、こんなにあったのかなと思つて、あまり批判はできんと思つて、ちょっとちゅうちょしておりますが。

部長、はっきり言って。総事業費に対してどのぐらいの、こんなして大体何割のことをやっております。これをちょっと胸の内を。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 私の把握していることの中でお話をさせていただきます。

単純に申し上げますと、例えば議員おっしゃいましたように、平成30年のインバウンド、海外からのお客様は41万人お見えになったと、このときの1人当たりの観光消費額を2万2,286円で見えておりますけれども、議員おっしゃいましたように、91億3,800万円の経済効果と、大きく言えば、そういう評価を皆さんされてきていると思います。

同じように、今の市長のほうから答弁ありましたように、例えば令和2年度、これは国内の、今もう海外はおられませんので、福岡なり何なりから対馬に入って来られる方の数なんですけども、5億9,400万円という経済効果を市長のほうから説明をいたしました。

2年度のこのお金というのは、今、議員おっしゃいますように、ながさき癒やしの旅でありますとか、ふるさとで心呼吸の旅とか、それから今言う、しま旅の旅とか、いろんなことで旅行の制度の中でお客様がお見えになって、2年度で2万2,778人泊、1泊、2泊あるでしょうけ

ども、泊まれた数が2万2,778人ということですので、県の観光統計で示す今の2万6,000円の観光消費単価を掛けますと5億9,400万円というふうになるわけでありまして、これは必ずしも多い数字とは逆に思っておりませんで、なぜかと申しますと、やはりコロナ等がやっぱり大きく響いております。そういったことで、やっぱり国内のお客様も伸び悩んでいるということはあるかと思えます。

3年度については全くもって4,457人泊しか、例えば、しま旅で来ておりませんが、やっぱりコロナでどうしても県外からの入り込みというのを制限をされたりとか、いろいろ県のほうでもそういうコロナ対策をされておりました。そういったこととか、国との決まりごととかを併せますと、全国からだったものを九州に絞って、次は長崎県内だけだったら行き来していいですよ。このふるさとの旅を使って行ってくださいというような、その時々でやり方を変えております。何とかして島の中に県民でもいいので入れていこうというので頑張ったのが、しま旅で、平成3年度の今言います4,450人泊という、少ないですけども、何らかの形でコロナ禍の隙間を縫って、島内にお客様を呼び込もうという、そういった観光商工課のほうでは取組をしておるといふことであります。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） その中で、私がさっき、令和3年は県の説明ではコロナの感染で、本土客の中で県内の範囲において対馬への移動は認めるというような感じやったんですが、先ほどの答弁では大きな金額の経済効果を上げとったでしょう。これはどこから出たんですか。先ほどの市長の答弁ですよ。4億の金を上げとらんですか。どこから出たんですか。ちょっとすみません、説明を。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 今、説明をいたしましたように、例えば令和2年度でありますと、島外から対馬に泊まれた観光客の、1年間で2万2,778人が宿泊施設に泊まられております。3年度でいきますと、しま旅だけでいきますと、4,457の方が、しま旅を使って旅行に来て泊まられております。そこに1人当たりの2万6,000円の消費単価を掛けます。（発言する者あり）3年度につきましては、今言いました、しま旅だけではなくて、ふるさと心呼吸の旅とか、いろいろ旅行商品があります。それをトータルしましたら、令和3年度の観光客、それによって来られたお客様の泊まれた数が2万7,797人ですので、2万6,000円の単価と掛けますと7億2,200万円になります。これは、しま旅だけではございません。旅行商品を使って島外から対馬に来て泊まれたお客様の数、2万7,797人、そこに客単価の2万6,000円を乗じまして、7億2,200万円でございます。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 私もしま旅滞在型のことを基本として、県の観光振興課に電話入れて確認した範囲でしかものを言っていないので、かなりの桁の外れた金額の差を、それ以外の事業のことやら云々は把握しておりませんので、ただこれを聞いて、勉強を後で直すという事で抑えます。

これは今後もG o T o キャンペーンというのは国の従来あったやつが新しいことを検討して、旅行社への支援をするという書き方をしていますよね。それはそれでいいんですが、このしま旅ほか、今までの事業というのは今後、継続していくということでもいいんですか、そのままの事業内容で。

そうならば、先ほど指摘しますような、やはり全業種のこれに参加できるような、やはり推進、これをやはりもう一遍尻をたたきながら、意欲のある方は旅行業者とのタッグを組ませて、やっぱり情報を流して、このルートで来てくれんかというふうなアタックをさせるようなチャンスを与えてほしいと、そういうふうな指導をしてほしいと、このことで、この問題については終えたいと思います。

私のほうは、最後にアオウミガメのことで前回に比べて産卵に来なくなったというふうな情報があったんですが、実は今年の話なんですけど、7月20日以降、25日かそこら、茂木浜の右側が階段工が切れて、あとは砂で河川が20メートル先には砂の浜になっております。そこでカメが生まれとったそうであります。ウミガメだろうということで、直径が10センチ以内、2匹ほど水のたまりに泳いでおったということではありますが、そういうふうなことで、環境さえ整えば産卵するという実態があるようなことが一部判明しております。

それで、せんだっても申し上げましたように、海に向かって左側の250メートルの階段工の余地は、以前の環境がそのまま残っておるという中で、ここの砂地の下の障害物を、砂浜の下の石もしくはその他のごみ等の除去をしながら、これをボランティアによって整備をするべきであろうかというふうなことを申し上げておったんですが、この10月に上対馬振興部のほうが中心となって、その話合いの場を、まずは近隣の少数の中で意見を聞きながら立ち上げて、そういうふうな行動を取ろうかというふうなことで、市の了解もした中で進めたいと思いますが、市長、そのこと報告には答弁いらぬというふうなことでありましたけども、そのことの断りだけを、まず少数の中で、あそこの砂浜の下が卵を産むであろうという場所が最低60センチほど穴を掘るそうでございます。そして約100個の卵をそこに産みつけて、約2か月すればふ化すると、子供は海に帰るといったことらしいんですが、だから、そこの満潮位から上の砂浜の下の状態、これを少数の中でまずは現地調査をして、そして上対馬振興部を中心に、その先導を切っていた

だいて、地元、茂木地区の区長さんはじめ、近隣の皆様一部、そういう検討会をするということ
で考えておりますが、この辺を直接了承いただきまして、上対馬振興部長を中心に進めるべきだ
と、こういうふうに思っておりますが、一言、御答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） ウミガメのこの情報につきましては、私も報告を受けておりました。
そういう中で、いろんな話を聞く中でも、やはりそこでウミガメが産卵をするということにおい
ては、あまり環境を急激にいじらないほうが、むしろいいのではないかなというように、私自身
も思っております。

そういう中で、今、議員おっしゃられるように、地域の方々を、そしてまた上対馬振興部の職
員を中心にして、あまり大きな環境の変化を発生させないような方向でウミガメの産卵を補助す
る。助成をするというような方向で進んでいただければというふうに私も思っております。よろし
くお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 残りの5分の時間ですが、市長のほうに、先ほどの9月12日
の国の方針、10月に大きく入国の上限の撤廃も含めビザの免除、これはビザの免除がないと韓
国から対馬に来ることが容易ではありません。これがないことには駄目なんです。これが入っ
ておりますから、非常に今から船の動きということが出来る可能性がもう大です。これは方向と
してはいいんですが、ひとつ市長、この中で問題は、コロナの発生が韓国の釜山を出発する前、
陰性にあっても、しかし、潜伏期間を含めて、対馬で陽性になり得る、容体が悪くなる可能性は
ありますよ。それを今、医療圏の枠と、それから宿泊療養施設の枠と、これは島内の問題であり
ますから、島民の基本的な対応の問題であります。観光旅行者、国外の取扱いというのを、そ
のことは現在2万人、5万人という数字の中で、日本の中に入ってきた外国人が病気になった場
合の、そういう隔離体制というのは既にもう形を決めてやっておるはずですよ。それを参考にし
まして、対馬保健所、長崎県の中で対馬は大きな目的によって、やはり複数の何十万人という年
間観光客が受け入れた場合のその措置、どうするかということを検討に入ってほしいと思います。
それを見込んで、皆さんの意見を聞きながら、そういう時期に来ておると思います。だから、そ
こらが今日の市長に申し上げないかなというふうな話の一つの大切な事柄でありますよ。これ
はひとつ、ここの皆さん、観光交流商工部、そして、健康づくり推進部ですか、ここらの連携の
中で、私は新たな立ち上げ、取組というふうなことで検討に入っていくかなと思います。大
きな産業が動くわけですから、この必須条件となるコロナの隔離、外国人のコロナの陽性が突如
発生した場合の対応、これを作り上げないことには国を動かすということはないかなと思います。
そのところを少し調査されて、対馬版を作ってほしい。その時期にもう入ったと私は思ってお

ります。ひとつその辺を大きな経済が動くわけですから、そういうふうなことを背景に、私は取り組まないかん時期が来たと、市長、ちょっとその答弁だけを、市長の答弁ほしいと思います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 外国人観光客の関係でございますけれども、まず外国人観光客の前に、今現在のこの医療圏別のこの感染症の確保病床数。

対馬市は29床でございますけれども、これを人口別に、その医療圏ごとの人口で割ったときに、対馬は950人に対して1床というようなことで一番上になっております。

長崎が3,000人に1床、それとか県央や佐世保も3,000人に1床というようなことで、対馬のほうの確保床はかなりほかの医療圏に比べて有利なほうになっておりますし、また療養床のほうも、県下のこの医療圏の中では壱岐がちょっと高いんですけども、その他においては上から3番目ぐらいになっているというようなことで、今の現状として捉えてほしいと思います。ただ、これがいいとか悪いとかじゃなくて、今の現状ではこういう状況でございますということで、御理解をしていただきたいと思ひますし、また今後こういう形で観光客が増えてきた際は、何らかの対応策が必要であろうというふうにも考えております。

以上であります。

○議員（16番 大浦 孝司君） 議長、以上で終わります。

○議長（初村 久藏君） これで、大浦孝司君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。

再開は11時10分からといたします。

午前10時52分休憩

午前11時08分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

報告します。坂本充弘君より早退の届出があつております。

引き続き、市政一般質問を行います。8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 新政会の船越洋一でございます。さきに通告をしておりました3点について、市長並びに教育長に質問をいたします。

まず、1点目の市制20周年記念事業についてであります。市が誕生して令和6年に節目の20年を迎えるわけですが、市として何か記念事業を計画されると思ひますが、私は韓国との交流600年祭を市制20周年記念事業と併せて、韓国も含めて事業の検討ができないか市長にお伺いをいたします。